

時代を 読む

渡辺 利夫



中国には「官僚資本」とい
う表現がある。特権官僚が政
治権力を利用して資産規模の
極大化を図る中国流の経営主
体のことである。共産革命以
前の中華民国政府時代に蔣介
石、宋子文、孔祥熙、陳果夫
・立夫兄弟などの「四大家族
官僚資本」と称された浙江財
閥が築いた富は、誠に巨大な
ものであった。

四大家族は、全国の銀行総
数の70%、鉄鋼生産量の90
%、発電量の67%、セメント
生産量の49%、繊維の60%、
石油と非金属においては一〇
〇%のシェアを占めた。加え

て日本車接收後の日本資産が
四大家族の手に落ち、シェア
は一段と高まった。特権官僚
は一段と高まった。特権官僚

による独占・寡占資本の形成
である。これら資産は革命に
よって共産党政権が掌握し、
新中国经济建設のための物的
基盤となった。この基盤なく
して毛沢東時代の工業化を語
ることはできない。

「官僚資本」化する中国

された「改革開放」と名づけ
られる市場経済化を主導して
きたのは共産党官僚であり、

彼らが掌中にした特権的収益
はかつてと同じく巨大であ
る。このところ、中国のシャ
ーナリズムでしきりに出てく
る用語が「国進民退」であ
る。少数の国有企業が諸種の
金融的優遇措置を受けて市場
シェアを増大させる一方、民
間企業の経営が思つにまかせ

ず、次第に市場からの退出を
余儀なくされるといふ、要す
るに少数国有企業による独占
・寡占化傾向に対する国民の
憤懣が「国進民退」なる用語
の生まれた理由である。

国有企業改革の転換点は一
九九五年であった。同年に
「抓大放小」(大を抓んで小

を放つ)という、少数の大企
業を選別してこれを優遇し、
群小の国有企業を切り捨てる
という政策が出された。翌年
には一千社の重点的育成を目
指す「戦略的再編」が開始さ
れ、その経営陣を共産党幹部
子弟が握る大企業の地位上昇
が始まった。

「国進民退」はその時以来
の傾向であるが、この用語が
頻りに語られるようになったの
は、リーマン・ショックから
の回復のために圧倒的な規模
で展開された金融的支援が約
百二十社の超大型企業に集中
し、特定企業による独占・寡
占が誰の目にも明らかになっ
たからである。ペトロチャイ
ナなどが世界売上高上位十社
にランクインするようになった。
危機からの脱却を求めて金
融が緩和され、空前の規模の
銀行融資が大企業に集中し
た。これら企業は危機の最中
に大量の融資を受けて生産能
力を過剰化させた。なお残る
資金が不動産や株式市場に投
下され、危機からの修復後そ
れほどの時間が経っていない
のに、現在の中国は早くも深
刻なバブル化の懸念を持たれ
始めている。

独占・寡占化の結果、付加
価値に占める利潤額(利潤
率)が増加する一方、賃金・
給与額(労働分配率)は減少
の一途である。労働分配率の
減少こそ都市住民の所得格差
拡大の主因であり、都市所得
格差の拡大が主因となって現
在の中国の所得分配はブラジ
ル、メキシコなどの名だたる
不平等国家レベルとなつてし
まった。中国の「ラテンアメ
リカ化」である。

中国の高成長を牽引する主
要因はなお固定資産投資であ
る。安定的な高成長に不可欠
な家計消費需要を牽引車とす
るには独占・寡占構造を矯め
る政策が必要であるが、その
ための「政治学」が中国には
ない。(拓殖大学学長)